

すずかけ



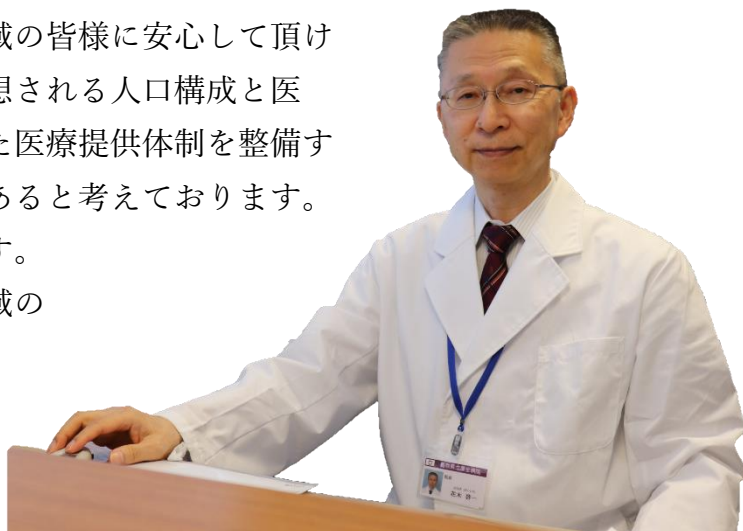
信頼される病院であり続けるために

令和5年4月に院長に就任しました花木啓一です。

当院は、鳥取県中部地域の中核病院として、地域の病院・診療所では提供が困難な高度医療や救急医療、5大がんをはじめとする各種がん医療、周産期小児医療、災害医療等の分野において中心的な役割を果たすとともに、在宅復帰を念頭に置いた医療を提供してまいりました。これらは、この地域で唯一の公的病院である当院の使命であり、今後も大きく変わることはありません。引き続き、地域の皆様に安心して頂ける質の高い医療を提供してまいります。

鳥取県地域医療構想によれば、高齢化とともに2035年までは医療需要は伸び続けますが、その後は医療需要が減少するとの見通しを示しています。このような見通しの中で、この数年間では中部地域において入院を要した救急搬送件数は増加基調にあり、当院の受け入れ数も拡大しております。そこで、地域の皆様に安心して頂ける医療を継続して提供するため、当地域で予想される人口構成と医療環境の変化を見据えながら、それに対応した医療提供体制を整備するとともに、健全な経営を図ることが肝要であると考えております。当院を取り巻く環境は大きな変革期にあります。

今後とも地域の他医療機関と連携し、中部地域の医療の質の向上に貢献するとともに、地域の皆様から信頼される病院であり続けることを目指してまいります。



子宮頸がん HPV ワクチン



産婦人科

森山 真亜子

令和5年4月からHPVワクチンのキャッチアップ接種が始まったことを踏まえて、今回は子宮頸がんについて学びます。

■子宮頸がんの原因

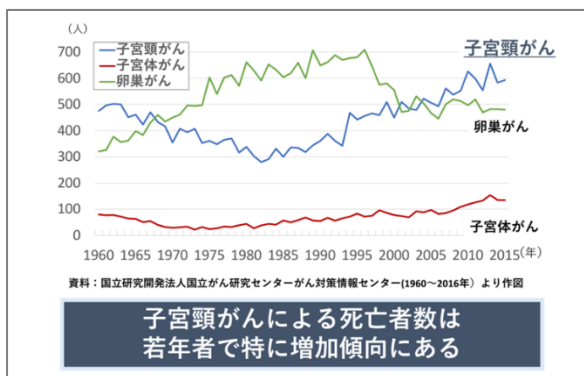
子宮頸がんの9割はHPV（ヒトパピローマウイルス）が原因で、通常性交渉により感染するウイルスです。性交渉の経験のある女性の50-80%が一生涯に一度はHPVに感染し、性交渉の経験があればだれでも子宮頸がんになる可能性があるのです。

■子宮頸がんとは

子宮頸部という子宮の出口にできるがんで、20～40歳以上の若い女性に多く、症状として性器から出血することがありますが、初期は無症状で病気に気づきにくいです。進行してから見つかった場合は子宮摘出などの治療が必要で、赤ちゃんを産めなくなってしまうことがあります。

■若年者で増加傾向にある子宮頸がん

20～49歳の婦人科のがんで亡くなった方の推移を示します。子宮頸がんでは、若年者で増加傾向にあることがわかります。



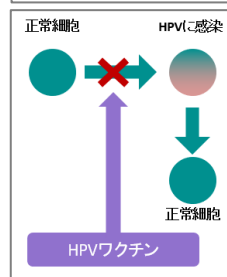
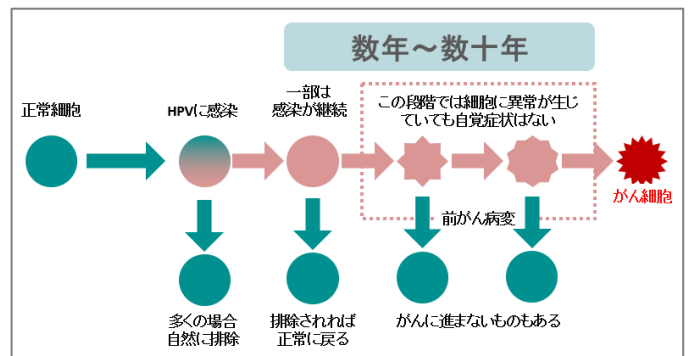
子宮頸がんになる人は1万人当たり132人で、身近なイメージでいうと2クラスに1人くらいです。子宮頸がんではなくなる人は、1万人あたり30人で、10クラスに1人くらいです。

■HPV感染するとがんなの？

HPVに感染していること＝がんではありません。HPVに感染しても、多くの場合は免疫力によってウイルスは排除されます。しかし、うまく排除されずに感染が長い期間続いた場合は、前がん病変を経てがんへ進行することがあります。前がん病変の状態で見つけるための検査が子宮がん検診です。

■検診で病変が見つかったら？

病変の程度によっては子宮の出口の一部を切り取る手術が必要になります。がんになる前に手術で取るのです。ただ、手術がその後の生活に影響が出る可能性もあります。やはり、手術で治ればよい、というのではなく、前がん病変も防いだ方がよいのです。



HPVワクチンは、正常細胞がHPVに感染することを防ぎ、細胞に異常が生じないようにします。

■HPVワクチンの種類

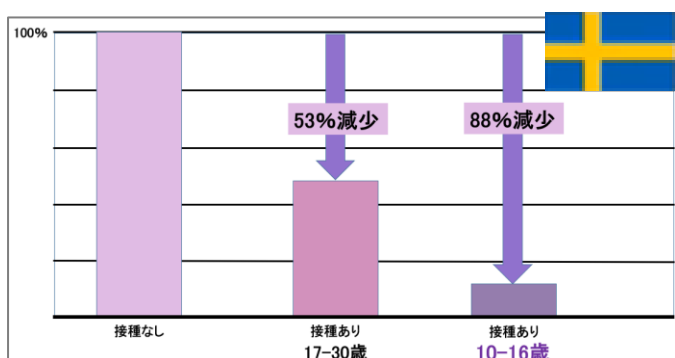
HPVワクチンには3種類あります。2価ワクチンは子宮頸がんの原因の60%を占める16、18型、4価はそれに加えて尖圭コンジローマの原因になる6、11型の感染を予防します。9価ワクチンは高リスク型をさらに5つ加えて、子宮頸がんの原因の80%をカバーします。この9価

ワクチンも、令和5年の4月から定期接種可能となりました。

■HPV ワクチンの効果

早くから HPV ワクチンの接種を行っていたスウェーデンでのワクチン接種と浸潤がんのグラフです。浸潤がんとは、子宮摘出以上の治療が必要ながんです。17-30 歳での接種で 53%、最も接種が推奨される、10-16 歳での接種で 88%も浸潤がんを減らしたというデータがあります。

HPV ワクチン接種の浸潤子宮頸がん減少効果



(Lei Jet N Engl Med 2020 より作成)

日本でも宮城県で、ワクチン接種によって前がん病変がはっきりと減少したという報告があります。子宮頸がんは、HPV ワクチン接種と子宮がん検診を行うことで撲滅できるがんなのです。

■男性の HPV ワクチン

HPV ワクチンは男性にも勧められます。中咽頭がんや肛門がん、尖圭コンジローマの原因にもなるため、これらの予防になります。また、男性も接種することで、集団免疫の獲得が期待できます。

■HPV ワクチン接種後の症状

頻度の高いものは接種部位の痛みなど、頻度の低いものには失神や手足の痛みがありますが、複数の研究によりワクチン接種と報告された様々な症状の間に、因果関係は示されませんでした。その結果をうけて、令和4年4月から HPV ワクチンの積極的接種勧奨が再開されました。

■HPV ワクチン後の症状に対する診療体制

ワクチン接種後に症状が出た場合に備えて、複数の病院が協力する縦の連携と、学校や市町村と病院が協力する横の連携が準備されています。接種後時間が経過してからでも、学校や市町村を通じて専門医に相談ができます。

■キャッチアップ接種

積極的なワクチン接種のアナウンスを中止していた間に接種の機会を逃してしまった、平成9-17年度生まれの女性を対象に、無料でワクチン接種ができる仕組みがあります。令和7年3月までで、この期間を過ぎてしまうと約5-8万円の費用がかかることとなります。対象の方はこの期間にワクチン接種をしてください。

対象:平成9~17年度生まれの女性
16~25歳
期間:令和4年4月~令和7年3月
3年間
この期間を過ぎると
約5-8万円の接種費用がかかる

HPV ワクチンは、すでに性交渉の経験があっても投与可能で、45 歳までは、効果に差はあるものの、接種が進められます。接種を中断してしまった場合は、残りの回数を注射すればよいです。すでに前がん病変である異形成を指摘されている場合には、ワクチン接種ではなく定期的なフォローアップが勧められます。

子宮頸がんは、ワクチン接種と子宮がん検診でなくすことができるがんです。子宮頸がんが苦しむことがないように、ぜひワクチン接種をお願いします。



入院セットを導入しました

看護局 淡路 緑

令和5年3月より入院セットを導入しました。他の病院に入院されたことのある方はご存じだと思いますが、入院生活に必要な病衣・タオル・日用品・紙おむつ類を、日額定額制で利用していただけるシステムです。入院準備や入院中の物品補充、病衣やタオルの洗濯などの手間が軽減されます。ご質問などあれば看護師または1階売店にお声かけください。

入院セットの例



検査装置の 大幅な入れ替えをしました

中央検査室長 黒田 誠

当院の中央検査室は、平成27年4月からFMS (Facility Management System) 方式で運営しています。FMS方式とは、検査装置や試薬などを検査センターが提供し、検査自体は病院職員が行う共同運営方式で、リース契約に近い形になります。

FMSの最大のメリットとしては、委託する検査センターの大量購入などによる検査システム、

検査装置、検査試薬のコスト削減が可能となることです。一方、デメリットとしては検査装置や試薬は検査センターから提供されるもので、病院の一存では変更できず、両者で協議する必要がありますが、いままで大きな問題はありません。この度、FMS契約の更新をむかえ、入札により委託する検査センターが変更になりました。非常にタイトなスケジュールではありましたが、年度末の週末を利用し、3/31~4/2の3日間で、入れ替えを行いました。検査システムや検査装置が一新され、検査システムの機能向上、検査装置の性能向上に伴い、今後はいままでも以上に、より迅速に正確な検査結果が提供できるようになります。



鳥取県立美術館定点観測

総務課 酒井 嘉則

令和 7 年春に開館する鳥取県立美術館。現在はその美術館の建設中であり、ホームページや広報誌、Instagram にて建設現場の撮影や進捗状況等を公開しているところです。当院では建設現場の定点観測地点としてヘリポートを提供しています。倉吉市街では数の少ない高層建築物である当院。そのヘリポートはおそらく倉吉で最も人間が安全に行きつくことができる最高位の場所であり、美術館からも近い位置にあるため、状況を見下ろせる場所として最適です。そして、美術館の北側となる当院と、南側・西側からの定点撮影写真を Instagram に公開しており、特に当院ヘリポートからのパノラマビューは圧巻です。進捗を随時更新して公開している美術館の進捗状況を、ぜひご覧になってください。



鳥取県立博物館
美術部門 学芸チームの
Instagram はこちら ▶



鳥取県立博物館 美術振興課職員による定点観測

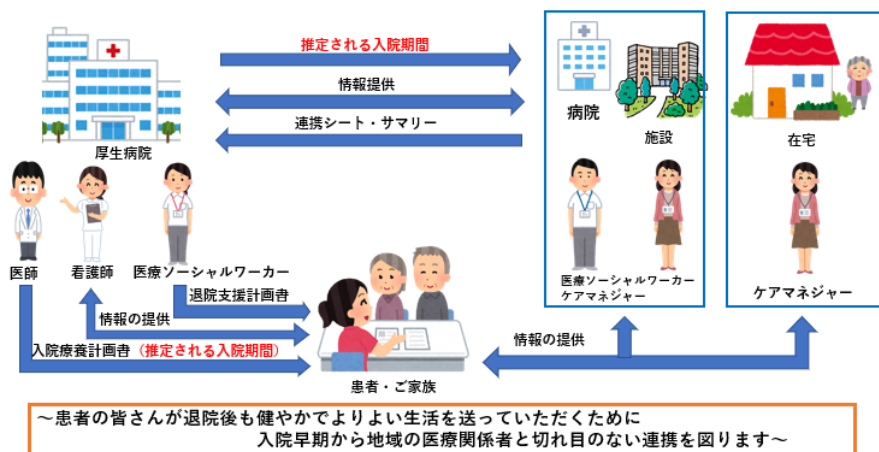
退院に関する

早期連携の取り組み

地域連携センター 竹本 智美

当院は主に、救急や急性期の方を対象に入院診療を行っています。入院は「非日常」であり、入院が長引けばそれだけで自立度や生活の質が低下してしまいます。特に高齢の方にとっては、身体機能や認知機能の低下の要因にもなります。こうした状況を考えると、入院早期から退院後の療養や生活を見据えておくことが重要となります。急性期の治療が終了し病状が安定した場合、回復支援やリハビリテーションを専門的に行う療養機関への転院や、自宅または施設といった入院前の生活の場に退院すること

になりますが、その際には一人ひとりに適した環境に移行できるよう支援させていただきます。令和 5 年 3 月より、医療関係および地域の福祉関係者との連携として、入院当初に推定される入院期間を情報提供しています。それによりこれまで以上にスムーズな支援につながるようになります。退院後も健やかで、より良い生活を送っていただくために、地域の医療関係者と切れ目のない連携を図ってまいります。



脳卒中相談窓口開設

脳神経外科 紙谷 秀規

脳卒中急性期治療の各段の進歩により、脳卒中死亡率は年々減少しています。しかし脳卒中罹患患者の割合が減ったわけではありません。脳卒中患者および患者家族の抱える浮上



する課題のひとつが、急性期以後の回復期、生活期の支援と介護です。そこで脳卒中に関して相談できるプラットフォームが脳卒中相談窓口です。この窓口設置に関しては、2018年設立した国の脳卒中・循環器病対策基本法から端を発し、日本脳卒中学会が主導する形で全国各地に一次脳卒中センター内に設置されつつあります。当病院においても2022年4月に設置されました。多職種から構成され現在は脳卒中治療医師、看護師、MSW、リハビリテーションスタッフからなり脳卒中療養相談士として総称されます。まだ開設スタートしたばかりですが、今後幅広く活動する中で脳卒中患者、家族の支援を行う予定です。

看護の日イベント

看護の日に合わせて、各部署の取り組みを掲示しました。



面会再開

5月8日より条件はありますが、面会ができるようになりました。

面会ができるようになりました



面会前に必ず病棟スタッフにお声がけください

時間 : 午後1時から午後7時まで
面会の時間 : 15分以内
面会できる人 : 家族2人まで (実質的なパートナーを含む)

1. マスク着用、手指消毒をお願いします
2. 発熱、咳、倦怠感、咽頭痛の症状がある方は面会できません
3. 病棟スタッフの指示に従ってください
4. 感染症の流行状況によっては、予告なく面会を禁止することがあります

鳥取県立厚生病院

健康公開講座

＊第1回健康公開講座

日時：令和5年6月25日（日）13：30～15：30

場所：視聴覚ホール

内容：がんと共に生きる～もしあなたががんになったら～

講演1「緩和医療と終末医療」内科医長 矢野民雄

講演2「もし、がんになったら

～がん相談支援センターより伝えたいこと～

がん性疼痛看護認定看護師 尾添有花里

がん化学療法看護認定看護師 杉本咲月

＊第2回健康公開講座

日時：令和5年9月24日（日）13：30～15：30

場所：倉吉交流プラザ視聴覚ホール ※詳細は後日お知らせします

＊第3回健康公開講座

日時：令和6年3月3日（日）

場所：倉吉交流プラザ視聴覚ホール ※詳細は後日お知らせします



職員のご紹介

看護局長 小椋 美保子

看護局長を拝命いたしました。

患者・家族のみなさまに寄り添う気持ちを大切に、丁寧で確実な看護ができるよう、努めてまいります。

そして、看護師一人ひとりがいきいきと、看護できるような環境づくりを支えていきたいと思っております。



手術センター長 橋本 好充

手術センター長を拝命いたしました。引き続き、安全安心な医療の提供に努めてまいります。



医療局副局長 西村 謙吾

医療局副局長を拝命いたしました。地域の皆さまに「厚生病院に行きたい」と思ってもらえるように今後も精進してまいります。



病理診断科部長 堀江 靖

病理診断科部長の堀江です。厚生病院には小学4年の時、扁桃腺手術を受けてからお世話になっております。

よろしくお願いいたします。



胸部外科部長 高木 雄三

胸部外科部長を拝命しました。地域の皆さんに信頼される外科医になれるよう努力してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



医療技術局副局長 松岡 哲史

医療技術局副局長を拝命いたしました。まだまだ力不足ではありますが、副局長として努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。



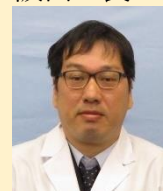
内科
實松 萌



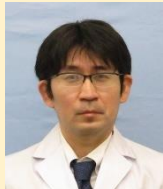
内科
堂坂 怜香



脳神経内科
阪田 良一



血管外科
笹見 強志



小児科
小林裕貴子



小児科
赤星 駿



小児科
室賀 千佳



脳神経外科
世良田真弘



泌尿器科
寺岡 祥吾



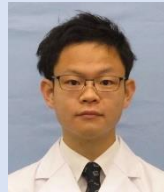
放射線科
仕名野堅太郎



麻酔科
藤井 勇雄



研修医
吉田 翔一



研修医
境田明日香



研修医
永禮あすか



図書室の一般利用ができるようになりました

長らくお休みしていた厚生病院図書室も一般利用できるようになりました。入院中の方、外来の待ち時間など、どなたでもご利用ください。病院図書室ならではの病気や健康の本をたくさん取り扱っています。希望があれば、職員に声掛けしてください。やさしくご案内させていただきます。子ども向けの絵本などもあります。

待ち時間に読み聞かせ、いかがですか。

【開室時間】

午前 9:00~12:00

午後13:00~16:00



【編集後記】

“チャット GPT” “メタバース” と次々とバーチャルの世界が広がる中、さて病院は？

この春までに医学生、看護学生、医療技術学生など多数の学生が厚生病院実習、病院見学に足を運んでくれました。500人近い多職種職員が入り乱れて患者さんのために働くリアルな姿を見て、皆さん感動してくれました。表紙を彩る病院屋上に並び立つ新人達の何と爽やか笑顔。とてもとても眩しく映ります。そしてこの4月よりバーチャルではない、晴れてリアルな病院でのお仕事が始まりました。

(広報委員長 紙谷秀規副院長)